

皆さま、ガルフードにおける御出展、並びにドバイ御出張、大変お疲れ様でございます。

今週4日間過ぎました。手応え如何であったでしょうか。後ほど、個別に詳しくお話を聞かせて頂きたいと思っておりますが、おそらく、多くの方が、良い反応があったと手応えを感じていらっしゃるのではないのでしょうか。特に、昨年も御出展された方々、昨年以上にお客さんが気さくにこられたのでは無いのでしょうか。

私、ここドバイに着任し二年と半年になりますが、特にこの半年から一年、多数の日本食が新たに開店し、そして、色んな方から、どこの日本食レストランが良いか、和食のメニューや食材はどこで手に入るか、週末にも電話を受けます。日本食が非常に魅力溢れる食事として受け入れられていることがわかります。

格別に魅力があるというだけではありません。和食は非常にポピュラーな身近なメニューとして認知されています。例えば、ここドバイも宅配がこの1年から2年で急速に浸透してきたのですが、食事のデリバリーは最も拡大してきている分野です。そして、デリバリー・アプリを見ると、寿司はピザやハンバーガーと同列の人気度です。ご参考までに、急速に食事のデリバリーが拡大発展した背景には、①元々の食事文化がそれほど豊かではなかったこと、②共働きが多い、③金持ちは自分で調理しない、④レセプションや食事会が多い、⑤そして宅配にかかる人件費が驚くほど安い、といった背景がございます。

このようなデリバリー・マーケット事情を背景に、今、レトルト食品でドバイのマーケットに攻勢をかけている日本企業もございます。ドバイには、まだまだ潜在性のあるマーケットの可能性が溢れています。そして、煌びやかな高級路線だけでなく、中間層を対象にしたビジネス・チャンスも多く転がっています。

そういった、ドバイのまだまだ潜在性あるマーケットの可能性を見据え、本年の出展企業の半分以上が、昨年も御出展された企業・団体様といった形になっているものとも思います。

今年は、ドバイにおいて、エキスポ、万博がございます。ドバイのビジネスマンに聞くと、この四・五年が勝負の時である、ここで生き残る、しっかりと根付く、あるいは拡大することが、ビジネスの発展に繋がると言っています。皆様におかれましても、今週見聞きし、感じとり、そして考えたことをもとに、ドバイにおけるビジネスが成功を収めますことを祈っています。そして、総領事館としても出来うる限りの支援を惜しみません。

それでは、皆様の会社・団体・組織が、ご発展いたしますことを心より祈念し、乾杯したいと思います。